

平成28年度 道徳教育にかかわる現状と課題

部長 松葉 俊枝

1 道徳教育の動向

「特別の教科 道徳」の教科書採択を来年度に、全面実施を30年度に控え、いずれの地区でも講演会や授業研究等を通して研修を深めている。「考え議論する道徳」「多面的・多角的な見方、考え方を育てる」「主体的で対話的な深い学び」など、新学習指導要領を意識した言葉がクローズアップされ、「道徳科」として実際の授業をどう進めていくか、授業研究や指導案作成などの具体的な実践が多かったことが今年度の大きな特徴である。

【上越地区】

上越市では2つの授業研究を通して、児童が主体的に議論する道徳や役割演技の意義や価値を実践的に学んだ。柏崎・刈羽では「道徳授業づくり講座」を行って「主体的で対話的な深い学び」を実践する道徳の授業案を作ったり、実践収録を作成したりした。糸魚川市では文部科学省委託事業を受けた研究会での学びを核に、指導案作成や年間指導計画、別葉を作成し、大いに研修を深めた。妙高市では2回の講演会を通し、教科化に向けた具体的な取組を確認した。

【中越地区】

長岡・三島ではワークショップと2つの研究授業を通して「考える道徳」への授業改善について研修を深めた。三条市では講演会、授業研究、実践発表を行い、教科化に向けた授業改善のあり方を具体的に学んだ。十日町・中魚では講演、情報交換、資料の送付などを行い、「特別の教科 道徳」の全面実施に向けてどう備えるか、活発に意見交換した。燕・西蒲では講義と演習、授業研究の2回の部会を通して、道徳科の授業の実践を研究した。魚沼市では講演会とグループワーク、示範授業とミニ講演会を行い、「考え議論する道徳」への転換を図るための具体的な授業イメージを共有することができた。南魚沼市では「考える道徳・議論する道徳」を目指して学習指導センター研修講座の受講、情報交換、授業研究を行い、授業改善について交流する取組をさらに進めた。

【下越地区】

新発田・北蒲では模擬授業・講演会での学びを生かして「資料提示」「問いをもたせる工夫」「自分ごととして考える」をキーワードに授業研究を行い、研修を深めた。村上・岩船では講演会と授業研究を通して、「目的をもって読ませる」「考えを可視化して話し合う」「学びや考えを記述する」などの観点で道徳科としての授業づくりに迫った。五泉市では、指導案検討会、研究授業、講演会を行い、「発問」「教材の吟味」「評価」について具体的に教科化に向けた見通しをもち、充実した研修となった。佐渡市では指導案検討会、授業研究会を通して、「価値の焦点化」「ロールプレイ」などの指導について活発な意見交換を行った。東蒲原では5回の部会で実践情報交換や実技研修、授業研究などを行い、「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて方向性を確認した。

【新潟市】

2回の講演会2つの授業研究を通して、教科化に向けた授業の在り方を追求した。「多面的・多角的な思考」を促す授業を目指し、「考え議論する道徳」の授業実践についてまとめた「私の道徳授業」第29集では、道徳科としての実践例が数多く収録された。

2 道徳教育の課題

来年度はいよいよ検定教科書採択の年である。待ったなしで全体計画、指導計画、別様の作成に移り、30年度の本格実施に備えなければならない。急ぐあまり、道徳科として必要な「道徳教育の要としての道徳科」の本分を見失わぬよう、地域教材や体験を生かした指導、指導体制の工夫その他、十分に配慮して作成に当たることが大切である。